



墓を考える

墓の歴史を調べると今の形態になったのは結構新しいようである。私たちの常識として墓の中には家に住んだ人の骨を納めるということがありますが、それは明治以降、老田においてはごくごく最近の常識のようである。

以前まではご遺体を火葬にしてから土に埋め、もしくは火葬せずにそのまま土に埋め目印として木を植えたり石を置いたりしていたようである。「…家の墓」ではなく「…さんの墓」これが一般市民の「墓」であったようである。この歴史を知ると墓にまつわる迷信が本当に迷信であり、ごく最近に割れだしたことであるということが知らされてくる。特に「墓に水が入ると…」ということは馬鹿らしく思えてくる。墓に水が入ること、遺骨が水につかることはさけようのないことであり、言い換えれば墓に水が入らないようになったの

は最近のことなのです。だから墓に水が入ると何かあるのならば、先祖がみんな怒って何かあったということになってしまふ。本当に先祖を冒瀆する考え方である。

私は墓に水が入ることはむしろ大切なことと考える。宗祖親鸞聖人の御遺言として「某^{それがし} 親鸞 閉眼せば、賀茂河にいられて魚にあたうべし」というお言葉が伝わっている。私たち動植物は食物連鎖ということによりいのちが循環している。動物が死にそれが腐敗する。それが土となり栄養となって草木が生まれ育つ。その草木を草食動物が食べ、そしてまたその草食動物が肉食動物を食べる。動物が死に至りまた植物が育つ。この繰り返しによりいのちが私のところまで流れてきているのである。この流れの一員として私たちもいるのである。だから私たちの骨も早く土に返してあげなければいけない。いのちの一員として、骨を何時までも残すのではなく、水に触れさせてあげて土に帰る手伝いをしなければいけないのではないだろうか。



作●谷口千代子

教団の動き「死刑執行の停止、死刑制度の廃止を求める声明」を発表 (2003.9.13 更新)

9月12日、法務省が死刑囚一人の死刑を執行したことについて、真宗大谷派では翌13日、宗務総長名による宗派声明を発表しました。

死刑執行の停止、死刑制度の廃止を求める声明

昨日9月12日、大阪拘置所で1人の死刑が執行されました。

私たちは、1998年6月29日以来、死刑の執行がなされるたびに「死刑制度を問いなおし死刑執行の停止を求める声明」を宗派として表明し、教団内はもとより、広く社会に対して死刑制度について論議していくことの大切さを呼びかけてまいりました。しかし、このたびも私たちの願いが聞き届けられることなく、引き続き死刑が執行されたことは誠に悲しむべきことであります。

今年7月23日、法務省によって約30年ぶりに死刑場が国会議員に公開されるなど、死刑に関する情報が一部公開されました。また、名古屋刑務所で起きた一連の受刑者死傷事件を受けて「行刑改革会議」が設置され、行刑制度の見直しが始められました。しかし、今回の死刑の執行が従来どおり、事前の予告なく突然に行われたことは、大変残念であるといわざるをえません。

現在、国際社会は確実に死刑廃止に向けての歩みを続けています。このような状況の下で行われた死刑執行は、死刑廃止へと向かう世界の流れに真っ向から対立するものです。

私たちは、たとえ、どのような罪を犯した人間であっても、それを排除することなく、かけがえのない「いのち」として尊重することをおして、共に生き合える世界を阿弥陀如来の本願として受けとめています。私たちはその根源の願いに立って、一人ひとりの人間が、そのいのちの尊厳において見出される社会の実現を願うものであります。そのため、さまざまな立場の人々と共に考え、論議していくための場を開いていくことにつとめる所存であります。

ここに、あらためて今回の死刑執行に遺憾の意を表明すると共に、今後の死刑執行を停止し、死刑制度廃止に向けての取り組みが進められますよう願うものであります。

2003年9月13日

真宗大谷派宗務総長 熊谷 宗恵

報恩講厳修

今年はいつもとちょっと違ったホンコハン

10 月 31 日 午後 2 時より

逮夜勤行

6 時より

親子の集い

11 月 1 日 午前 9 時より

晨朝勤行

午後 1 時 30 分より

日中勤行

☆本年度より親子の集いを開催します。親子で（子どもだけの参加、親だけの参加も OK）念珠を作り、常入寺特製野菜カシーをみんなで食べます。

★そしてもう一つ、長寿者などを対象に自宅からゴボハンへ、ゴボハンから自宅への送迎サービス（無料）を実施いたします。前もって電話をいただければ原のものが返えにまいります。是非ご利用ください。

お説教は昨年同様 松井 勇さん（福光町）です。
お齋は 11 月 1 日あいます。

ご近所の方をお誘いの上是非足をお運びください。
住職・役員 心よりお待ち申し上げております。

お し ち ゃ は ん
御 正 忌 法 要

11 月 24 日（休）午前 10 時より午後 4 時まで